



第 36 回交流会 「ホタルを見にいこう！2023」

2023年6月4日（日）

参加者 8名

6月4日三崎口3時30分集合、午前中のんびりしたい私には丁度良い集合時間。お久しぶりと挨拶しながらバスで移動し水道広場へ。車の人たちを待つ間、何かいないかなとキョロキョロ。全員そろってから森へ下りて行きました。休日なので少し人が多いかな。前回から約一ヶ月、今日も俳句をと5文字7文字の物を探しながら歩きました。レース編みのような花を咲かせていたミズキはマチバリの頭くらいの小さな実をたくさんつけていました。クサギの花はまだただ道近くの低木に小さな実がたくさんついていて、何だろう。「コウゾじゃないかしら」フムフム。(ヒメコウゾだそうです)川まで下りると川底の泥が削れています。二日前の大雨(大雨警報・避難勧告まで出ていました)で前回教えてもらった「ニナの道」も消えています。カワニナは海まで流されたかしら、ホタルはどうしたかな・・・



ヒメコウゾ

花が終わると白くなっていた葉にまた葉緑素が戻り緑色になるとか、忙しい植物です。少し薄暗くなってきた道をエノキテラスに向かうとキャッ、ン鳥？夕方なのでクイナかな。そのあと耳をすませても全然鳴いてくれません。残念！

今日の夕食はペルルカフェでお弁当なのでもう少し、峠にさしかかると水がちょろちょろ流れ道はびしょびしょ、赤土も流れ出ています。以前崖崩れの工事をした場所近くで崩れたみたいで。危ないから早く行こうと声をかけ、抜けて行きました。

今日の観察場所はトイレ裏、夕食食べて暗くなったら戻ってきます。お腹がすいたなど小網代湾に出ると夕日が沈む所でした。ペルルカフェでは早くついた人がもうアイスクリームを注文しています。歩いたから良いよねと私もバニラ味を注文、美味し！お弁当を食べ、おやつをいろいろいただいてもぐもぐ。帰りのバスが小網代なので終バスの時間が早いと話して



ハンゲショウ

スタッフ研修 第5回海岸歩き「毘沙門湾から宮川湾」

2023年5月21日（土）

晴れ

参加者3名



当初予定していた20日（土）は、早朝霧雨が降っていたので翌日に順延となった。そのためもあってか、参加者が少ないのが残念だった。

本日はピッカピカの晴天。前回の続きで、慈雲寺そばの毘沙門バス停から宮川湾へと下って行く。降り立った毘沙門湾東詰めから西詰めまでは道路沿いを歩くと、5分もあれば着いてしまうのだが、我々は敢えて海岸に降り、海の間際を選んで歩く。



新月の大潮で、潮はよく引いていて泥干潟状態（写真①）。注意深く足を運んで進む。すると、今までに見たことがないほど大量の、大型サザエの貝殻に遭遇（写真②）。初めのうちは、近くの料理屋さんが貝殻を捨てたのかしらと思ったのだが、それでは説明がつかないほどの量だ。あとで対岸で船の整備をしていた漁師さんに聞いたところ、沖合で稚貝を放流してサザエを育てているからだとか。あんな立派なサザエ、近頃食べていないなあ～、美味しいだろうなあ～と、忘れられない

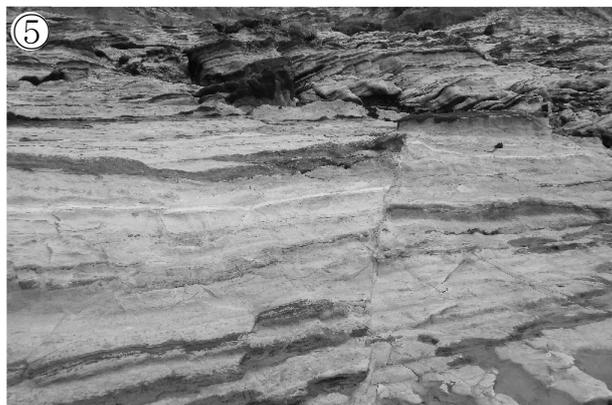
光景となった。

アカテガニや、小さな海のカニたちがちよろちよろと出てくる。Nさんが貝の卵塊らしきものを発見（写真③）！なんとKさんは、携帯用の顕微鏡を持ってきていた。対象物の上に顕微鏡をかざし、iPadやスマホの画面で見るという仕組み。早速見てみると、薄黄色の膜の内側に黄色い卵のようなものがぎっしりと。小網代で教えてもらったツメタガイの黒い卵塊のことを思い出す。潮の来ない隙間のような地面には、ミヤコグサ、ハマボッス、ハマヒルガオ、ノイバラの仲間、ハマエンドウなど、海岸性植物の小花たちが目を楽しませてくれる（写真④）。

毘沙門湾西詰め。ここから、30mを超える海蝕台の上へと道路は登っていく。我々は、いよいよ本格的な岩礁海岸へと進んでいく。右側の崖面には、スコリアという黒っぽい火山噴出物と、白っぽい



火山灰が深い海底で交互に積もってできた、白黒のミルフィーユのような地層が続いていく(写真-⑤)。断層ができて亀裂が入ったり、途中でグネグネ曲がって切れたり(スランプ構造)、ミルフィーユの向きがかわったりと、見ていて飽きないおもしろさだ。



いよいよ「^{ぬすつとが}盗人狩り」という、最大の難所にさしかかる。ここは、追いかけて、いよいよ崖に追い詰められた盗人が、深くえぐられた崖下を見て、あまりの恐怖で動けなくなり、捕まったというところから名付けられたようだ。長い時間をかけて、波が崖を激しく削り、それが隆起してできたのだろう。ドドーンと押し寄せる波が、えぐられた地形のために、より勢いを強めて押し寄せる様は、怖いようだ！風の強い日、ここでシャボン玉のように飛んでいた、「波の花」を見たことがある。橋が架かっているのだから、恐る恐る渡って先へ進む(写真-ま⑥)。盗人狩りに押し寄せる波を、少し離れた所から見ながら、お弁当を食べる。ここから見上げる崖面では、地層が上向きに立ち上がっているのだから、大きく間隔の開いた地層が踊り狂っているように見える。漆喰のような白さの凝灰岩の層が、周りの地層を無視するように奔放に流れ込んでいるのは、何故だろう(写真-⑦)。



岩が波立つような足もとに気をとられながら先に進むと、千畳敷と呼ばれる広い岩礁に出る。ここには直径 20cm ほどの穴が無数にあいている。戦時中、

柱を立てて^{むしろ}蓑をかぶせ、海水をかけて製塩をしていた跡だという(写真-⑧)。濃い塩水をためるための、長方形の窪みも掘られていた。岬の先端に、ひきちぎられたような、大岩、観音山が見える(写真-⑨)。ここから先が宮川湾となるのだが、同時にちょうど南下浦町と三崎の境となる。われわれが迎ってきた雨崎からここまでは、南下浦町。ここから先は、いよいよ三崎である。観音山と崖との間を抜けてしばらく行くと、多数のヨットが係留された「みうら・宮川フィッシャリーナ」があり、よく整備



された栈橋が連なる（写真⑩）。その先は宮川漁港となる。今日はここから上の道に上って、宮川町バス停から帰る予定だった。ところがまだ時間があるし、どうせなら、この先を行って、次回の下見をしようということになった。みんな元気だ！

地図で見る海岸線はこれまでより滑らかだったが、実際に行ってみると、岩礁はここまでより高低差が大きく、歩きにくいことこの上ない！（写真⑪）「通り矢」の角まで行って、道路に上がったが、ひざを痛めて休んだ仲間もいることだし、ここは、みんなが十分に体力を回復してからのコースにしよう、ということになった。次は「城ヶ島の海岸歩き」にしよう決めて、北条湾沿いのバス停から三崎口駅に向かうバスで、帰途についた。

記：松原あかね 写真：浪本晴美、木皿直規



Google マップ上に、木皿直規さん開発のスマホアプリ『位置ロガー』で記録した GPS 情報をマッピングし、ルートを示しました。

小網代を詩う

蛍

中井 由実

なんの前触れも無く

空中に点る光

空気の中を泳いで また不意に消える

どこへ?

次は どこから?

答無く

今度は上のあたりで

つながりもなく 光り

そして消える

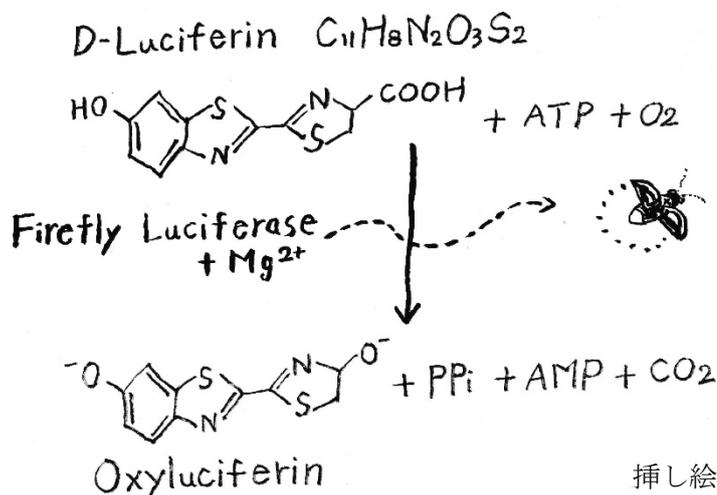
その儚さ

現^{うつ}か、と手を伸ばしても届かない

けれども今日は その実^{じつ}を求めない

人には夢でいい

一夜の短い思い出でいい



挿し絵:「ホタルのお尻の中」伸

夏の夜の舞踏会

中井 由実

長い期間じつと土の中

繭のまままでいたという 小さな昆虫

一切の音を拒絶した 暗転したままの舞台で

北も東も無く

夕闇に浮かぶ空だけをよりどころにして

舞い続ける

草が生え放題の田んぼの跡地

その向こうの小川から飛ぶから

人間の目にその姿は見えない

まして暗い夜の中

飛び交う小さな光は

まるで幻影 気まぐれな

それが

まだ見ぬ連れ合いに呼びかける

エスコートの合図と知ってはいても

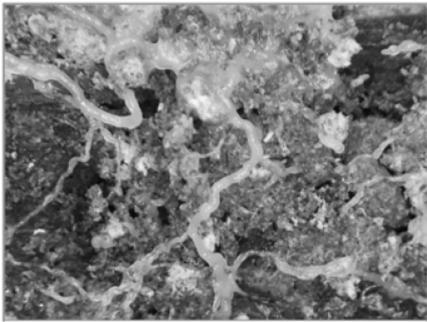
スタッフ研修「変形菌探し 2023@光の丘水辺公園」

スタッフ研修報告「変形菌探し 2023@光の丘水辺公園」

毎回、光の丘水辺公園友の会会長の別府さんのご協力をいただいている変形菌探しですが、今年は「4月から毎月やりましょう」とお声掛けいただき、なんとも贅沢な研修となりました。

4月10日：参加者6名。まだ肌寒く、あまり出ていないだろうな～と予想していましたが、結果は予想通り。かなり前に出たと思われるムラサキホコリの仲間のみ。ただ、AMさんの見つけた朽ちかけた櫓木に別府さんが黄色い変形体を発見。タッパーを用意していた私が持ち帰って育ててみることにしました。

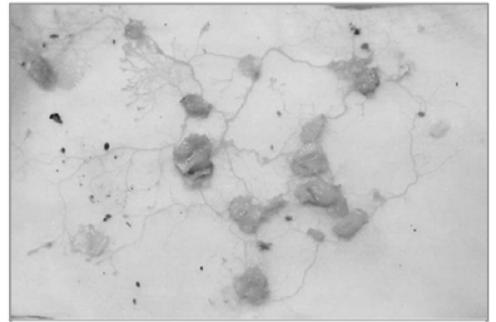
湿らせたキッチンペーパーを敷いたタッパーに木片を置き、様子を見てみると、変形体は結構なスピードで動き回っています（といっても、目で見ても動いている様子はわかりません。数時間後に見ると、思いもよらない場所に移動している、という感じです）。木片には小さな虫がたくさん這っていましたので、このままではいけないと、別府さんのアドバイスで、下のペーパーに餌で誘い出す作戦に移しました。餌は自宅にあったオートミール。気に入ってくれたようで、オートミールはすぐに黄色く染まりました。そして、新たなタッパーに移して、周囲に餌をバラバラに置いてみると、ネットワーク状に広がっていくではありませんか！餌を食べ尽くすと、探索の手足(?)を伸ばします。食欲旺盛で、いつの間にかタッパーは3つ、4つ、5つと…。増えすぎっ！！ちなみに木の中と同じ暗所に置いて育てました。



木片の上の変形体（当日）



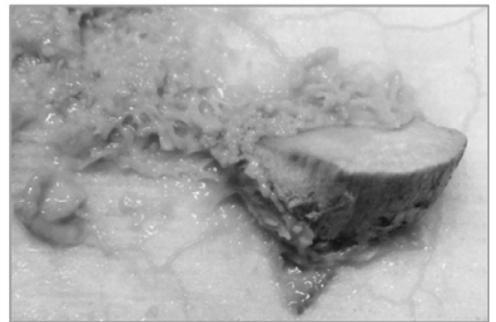
ペーパーに下りてきた（4日後）



ネットワーク状に広がる（9日後）

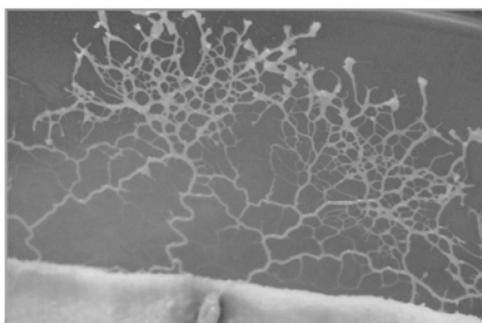
その後、変形体がオートミール以外に何を食べるか、実験してみました。まずは米、麩、高野豆腐、パスタ。どれも嫌いではないことがわかりました。次にきのこ。エリンギ、シイタケ、マイタケ、シメジ。どれも大喜び！うわーっと襲い、ふつふつと沸き立って、特にエリンギは一晩で跡形もなくなりました。そうか、この子たちは普段はきのこを食べているんですね。

「うわーっと襲い」と言っても変形体の動きは超スロー。それでも気が付くと餌を覆っているのはもちろん、壁に素敵な網目模様を



きのこを襲う変形体

描いていたり、蓋まで登ってぶら下がっていたりします。なんとかこの動きをとらえられないかと、デジ

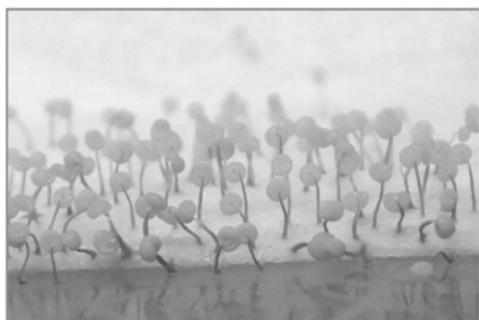


壁を登る変形体

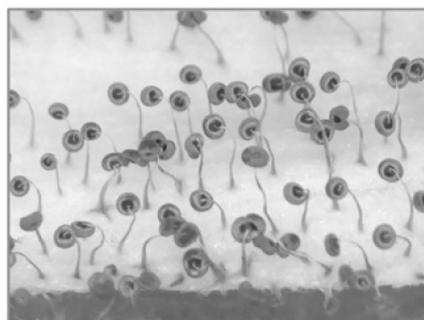
カメラでタイムラプス映像（コマ送り動画）を撮影してみました。生命体であることを実感し、これがなかなか面白い！通信でお伝えできないのが残念です。

5月21日：変形体はまだまだ元気。なかなか子実体にならず、タッパーが管理できる範囲を超えたため、生まれ故郷の水辺公園に半分帰してあげました。駆け付けたスタッフや水辺公園友の会のみなさんに変形体をご覧いただくことができました。

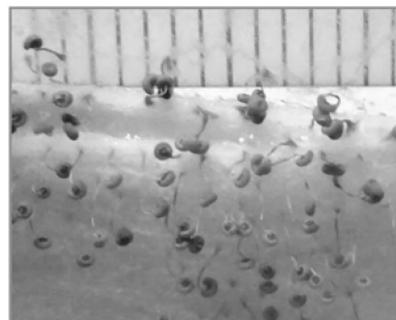
5月26日：朝起きると、なんと子実体になっているではありませんか！！昨日タッパーの1つが乾燥して餌にカビも生えてきたので、ダメ元で1日窓辺の光に当ててみたのです。飢餓状態と光が子実体に誘導するというのは本当でした。最初に見た時は黄色くて可愛い子実体でしたが、見る見るうちに茶色っぽく変色していきました。もうちょっと早起きして、変身する場面が見たかったな～。数日後、どんどん増える変形体を引き取っていただいたMMさんや別府さんのところでも、光のある場所に1日置いたら、子実体になったそうです。



瑞々しい黄色い子実体



1時間20分後、成熟してきた



1メモリ1mm

6月5日：久々の変形菌探し。参加者5名。雨の後でしたので、あまり出ていませんでしたが、ツノホコリ、ウツボホコリのなかま、カタホコリのなかま(?)に遭遇。ウツボホコリのなかまは未熟すぎて、その場では何者だかわからなかったのですが、持ち帰った翌日には成熟して、ぼわっとピンク色の子嚢をふくらませ始めました。



変形菌を探す

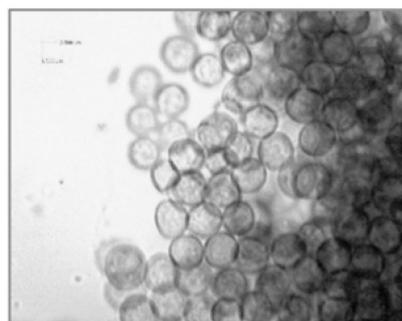


未熟な状態



成熟しました

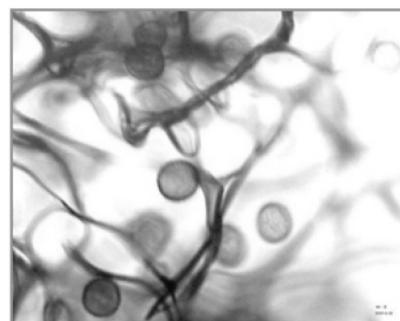
変形体から育てた変形菌も、子実体になったものの、「おまんは誰じゃ？」状態は変わりません。モジホコリのなかまであるとは思われますが、例えばイタモジホコリと断定するには孢子などを顕微鏡で確認する必要があるとのこと。それならば、と生物顕微鏡を導入。顕微鏡で覗く世界はまた別世界！宮本卓也先生にプレパラートの封入方法などいろいろアドバイスをいただきながら、修行中です。うまく行きましたらまたご報告します。今回はちょっとだけ孢子をご覧くださいませよう。浪本晴美



モジホコリのなかま



ウツボホコリのなかま



ムラサキホコリのなかま

サロン小網代 「三浦半島子産石を訪ねる」

2023. 7. 10 祖父川精治

横須賀市秋谷周辺の海岸や山麓から、世にも珍しい球形状の石が次々と発見されている。大きさは、サッカーボールから野球ボール級の丸い石で、最大級のものは直径1メートル級も出土している。波浪で洗われた玉石と異なり、丸い球形状の石である。

昔から子産石(こうみいし)と呼ばれ、海底にはゴロゴロしているが、重いので持ち運びはムリという。最大級の丸い石は、京急バス停の「子産石」横にあるもので、直径1メートル級はある。

並んで横須賀市指定市民文化遺産の標識がある。

古文書によると、「この地海浜の岩より石を産す、子産石と言う」とあり、石中から石を産むというのである。

横須賀市自然人文博物館の解説によると、「秋谷周辺の海岸や地層からは、子産石と呼ばれる球形状の石が多数産出し、安産のお守りとされている。子産石の正体は堆積物中で特定の物質(炭酸カルシウムなど)が集まって二次的に形成された硬い塊で、ノジュールと呼ばれている。

近くの熊野神社や、ヘチマ加持で有名な円乗院の境内には、数多くの子産石が並んでいる。また近隣の家々の周りにも、子産石が並んでいる。

遠く離れた鎌倉市内にも、子産石を見ることができる。長谷寺近くの御霊神社境内、本殿脇の柵に囲まれて子産石が2個も置かれている。案内板があり手玉石とある。珍しいことに重量が記されて、それぞれ16貫(60キロ)と28貫(106キロ)とある。見た目よりかなりの重量である。他に大きな旧家の門前や、市内の路傍にそっと置かれているのを見ている。

三浦半島各地から発見された縄文、弥生、古墳時代の遺跡からも、数多くの子産石が出土しているという。葉山町にある森戸神社境内の安産子宝の神として水天宮がある。「まいられよ子宝の福さずかりに」触れると子が授かるといふ、靈験あらたかな「子宝の石」という子産石が小社の中には幾つも置かれている。

近くには秋谷海岸の最大の名所である、海中から約12メートルの立石が屹えている。頂には短い松が根を張っている。安藤広重の浮世絵にも描かれ、江戸時代から親しまれてきた名勝地で公園風に整備され無料駐車場やトイレもある。

立石バス停横に、「立石不動尊入口」の石柱がある。明るい谷川に沿って奥へ進むと立石不動尊の建物があり、更に行くとも三浦半島では実に珍しい10メートル級の滝が懸かっている。丘陵地の多い三浦半島では最大の滝とおもわれる。

浄楽寺バス停から山側へ少し入った所に、和田義盛が文治5年(1189)建立と伝えられる浄土宗金剛山勝長寿院大御堂・浄楽寺がある。鎌倉時代最高の仏師である運慶作で、重要文化財指定の仏像5体が収蔵されていることで有名である。年に幾度か、一般公開をしている。私も、数回訪れている。

また寺境内には、明治時代初期に鉄道、郵便、新聞等近代文化事業の父といわれた前島密夫妻の墓がある。

*ノジュール(nodule) 堆積岩中や火成岩中にある別の種類、または周囲の岩石とは異質な塊である。

サロン小網代 読者のお声「4月交流会に寄せて」



自然の中を散策しながら、短歌・俳句なんて…最高の充実した生活を送っていらっしゃる様子、私もその中に歩いているような気分になりました。

三井ヒデ子



こあじろの森くらぶオリジナルカレンダー2024の画像募集中です

こあじろの森くらぶオリジナルカレンダーの2024年版をみんなで作りたいと思います。カレンダーに載せる写真やイラストなどの画像を募集しています。応募された方には参加賞として、2024年版カレンダー（1部/人）をプレゼントします。ふるってご応募くださいますようお願いいたします。

応募資格：こあじろの森くらぶ会員とご家族、ご友人の方

応募受付期間：2023年7月1日から2023年9月30日まで

募集要項

応募作品：2022年10月から2023年9月までに小網代の森で撮影した写真又はイラストで、他に発表されていない作品（季節感のある画像が採用されやすいです）

横長の画像で500KB以上のデジタルデータ（可能であればJPG）

応募方法：info@mori-club.comに、申し込みメールをお送りください。メールタイトルを「カレンダー申し込み」とし、メール本文に、お名前・ご住所を明記してください。こちらからご案内メールを返信させていただきます。

選考：2023年10月にリモートで選考会

発表：2023年11月下旬発行のこあじろの森くらぶ通信に掲載

お問い合わせ：info@mori-club.com（画像受付担当）

小網代の森NEWS

スタッフの活動

2023.05.28（日） スタッフ会議（於：横須賀市立市民活動サポートセンター）
通信第36号印刷

2023.06.04（日） 第36回交流会「ホテルを見よう！2023」

2023.06.05（月） スタッフ研修 変形菌探し（光の丘水辺公園）

2023.06.09（金） 三浦の歴史 追加取材（江奈湾 震洋艇格納庫）

2023.06.18（日） スタッフ研修 三浦の海岸歩き（城ヶ島その1）

2023.07.03（月） スタッフ研修 変形菌探し（光の丘水辺公園）

2023.06.24 07.08・15・18・22 赤星直忠博士文化財資料館講演記録 編集会議1～5（リモート）

2023.06.13 07.08・15・16 スタッフ会議（リモート）

ご寄付ありがとうございます

安西章次 石川登美子 遠藤黎美 小田島一生 柿島京子 金木公子 塩入一弥
嶋津誠 鈴木慶子 鈴木カヲル 祖父川精治 高間玲江 仲澤イネ子 松林伸子
松原あかね 三本保子 宮本美織 盛野成信・雅子（五十音順）

以上の皆さまにご寄付をいただきました。大切に使用させていただきます。

第38回交流会 こあじろの森くらぶオリジナルカレンダー掲載画像選考会

皆さまにご協力をお願いしておりました、カレンダー画像の選考をおこないます。年に一度のリモート交流会です。ご自由に、是非ご参加ください。

日時：2023年10月22（日） 13:00～14:00

- こあじろの森くらぶホームページ（<http://www.mori-club.com/index.html>）の「会員専用ページ」にログインしてください（ログイン情報を同封いたしました）。リモート交流会へ接続するボタンがありますので、クリックしてください。12:30頃からスタッフがお待ちしております。

●●● 第8回こあじろの森くらぶ総会 ●●●

4年ぶりに、直接皆さまとお顔を合わせることが楽しみな総会です。今年是小網代の森近くの「潮風スポーツ公園」に会場をお借りして、2022年7月から2023年6月までの活動報告並びに次年度の活動計画をご提案します。どうぞ皆さまご参加いただき、くらぶのこれからのためにご指導くださいますようお願いいたします。残念ながらご出席できない方は、本号に同封の委任状をご提出ください。恐縮ですが、切手のご負担をお願い申し上げます。

また第二部では、会報やカレンダーに美しい写真をご提供下さっている、T.Ishizukaさんが「Marronnier（マロニエ）・アルバム日記」と題して、小網代他各地で撮影された、様々な写真をご紹介します。マロニエなんて聞いただけで、わくわくしたり、学生時代を思い出したり、期待が膨らみますね。第二部からは、会員以外の方の参加も自由ですので、どうぞお出かけください。

日時 2023年8月27日（日）第一部13:30~14:00、第二部14:30~16時頃
 会場 三浦市潮風スポーツ公園 管理棟2階A・B会議室（三崎口駅から国道134号線沿いに徒歩約10分）別添地図（小網代湾周辺遺跡地図）ご参照
 第一部 議事
 第二部 T.Ishizukaさんの写真ショー「Marronnier（マロニエ）・アルバム日記」

●●● 第37回交流会のおしらせ ●●●

こあじろ考古学講座「小網代地域の遺跡とその周辺ー三浦半島の考古学研究の歴史からー」

4月の赤星直忠博士文化財資料館遠足ですっかり考古学に魅了されたこあじろの森くらぶですが、縄文、弥生、古墳時代の小網代周辺の暮らしはどんなだったのだろうか、もっと周辺の遺跡を知りたいという思いが強くなり、横須賀考古学会でもご活躍の須田英一先生に上記タイトルのレクチャーをお願いできることになりました。須田先生は現在、法政大学現代福祉学部・東海大学文学部・中央大学文学部・昭和女子大学人間文化学部で兼任講師を務められています。主に文化政策（文化財政策、埋蔵文化財、文化遺産学、史跡の保存・活用と地域社会との関わり）と考古学（先史考古学、縄文時代の生業）を研究していらっしゃいます。また、1994~2011年、三浦市教育委員会に学芸員として勤務され、実際に数々の遺跡を調査し報告をまとめられています。そんな三浦市内の遺跡に詳しい先生から小網代周辺の遺跡やその研究の歴史についてお話が伺える、またとないチャンスです。縄文・弥生の小網代の風景が見えてくるかもしれません。ご家族・ご友人をお誘いの上、ぜひご参加ください。

日時 : 2023年9月9日（土）14:00~16:00
 会場 : 三浦市潮風スポーツ公園 管理棟2階A・B会議室（三崎口駅から徒歩10分、定員46名）別添地図（小網代湾周辺遺跡地図）ご参照
 講師 : 須田英一先生
 参加資格 : 会員とご家族、ご友人

なお、今回は座学ですが、11月頃に再び須田先生を講師にお迎えし、小網代周辺の遺跡を歩いて巡る「こあじろ遺跡探訪会」を予定しています。ぜひ合わせてご参加ください。探訪会の詳細は次号通信でご案内いたします。

●●● 8月の変形菌探しはお休みです。次回変形菌探しは2023年9月4日（月）を予定しています（雨天順延）。参加を希望される方は事前に下記の森くらぶ連絡先までご連絡をお願いします。

●●● 8月の海岸歩きはお休みです。次回三浦の海岸歩きは2023年9月30日（土）を予定しています（雨天順延）。参加を希望される方は事前に海岸歩き連絡先(post@mori-club.com)までご連絡をお願いします。

こあじろの森くらぶ通信 No.37

2023年7月30日発行

こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地 : 〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田1528-75

連絡先 : info@mori-club.com (高橋)

046-889-0067 (仲澤)

URL : http://www.mori-club.com

年会費 : 1000円 (7月~6月 入会金不要)

郵便振替 こあじろの森くらぶ 00290-6-137203